4 スポーツ観戦

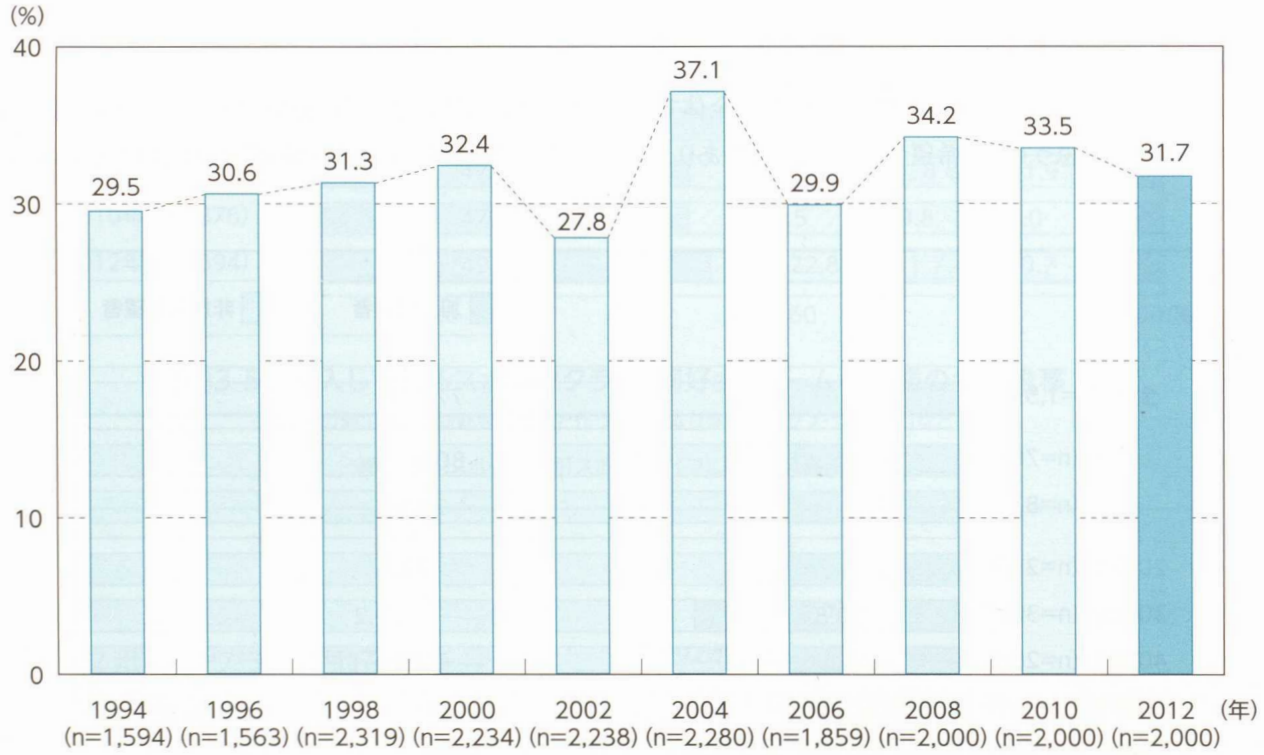
4-1 直接スポーツ観戦状況

過去1年間に、体育館・スタジアム等へ足を運んで直接スポーツを観戦した者は、全体の31.7%であった（**図4-1**）。2010年の33.5%と比較すると1.8ポイント、2008年の34.2%と比較すると2.5ポイント減少した。今回の結果から、過去1年間のわが国成人のスポーツ観戦人口は、約3,296万人と推計された。

性別にみると、男性の観戦率は36.9%、女性の観戦率は26.6%と、男性が女性を10.3ポイント上回っていた（**図4-2**）。男性の観戦率が高い傾向は過去の調査結果と同様である。

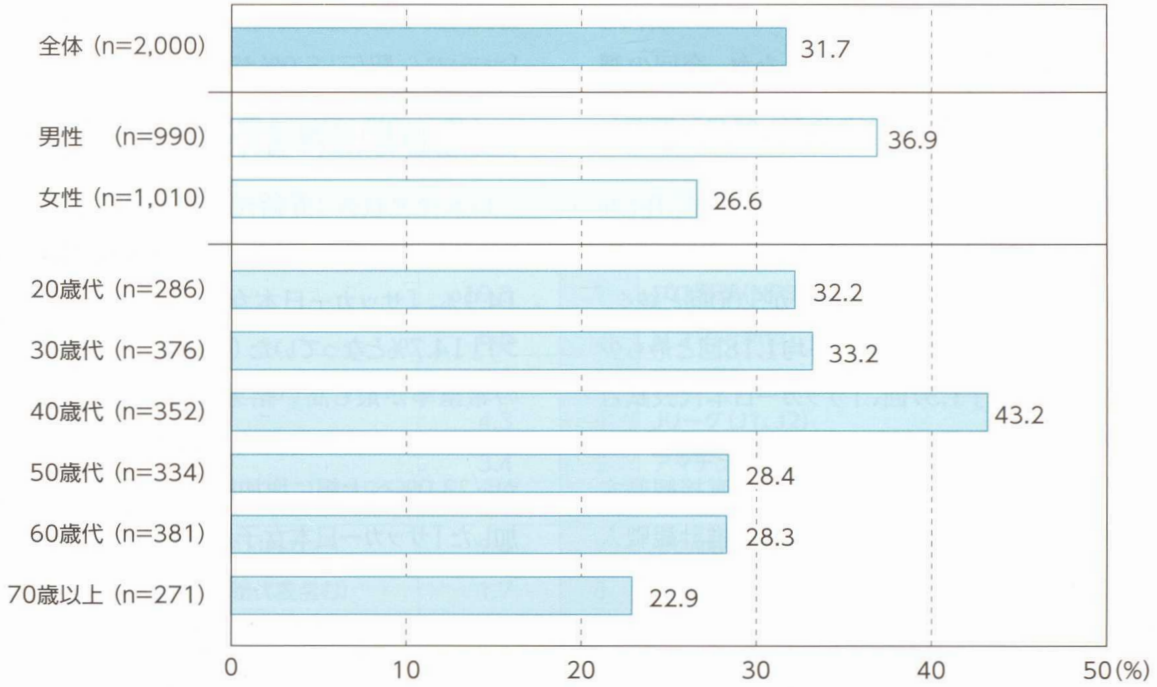
年代別にみると、40歳代の観戦率が43.2%と高く、30歳代33.2%、20歳代32.2%と続く。40歳代を頂点とするこの傾向は、2010年調査と同様である。

運動・スポーツ実施レベル別では、過去1年間に運動・スポーツをまったく行わなかった「レベル0」における観戦率が17.8%と最も低くなっており、運動・スポーツを実施していない者は直接観戦も低調である（**図4-3**）。また、運動・スポーツを最も活発に行っている「レベル4」の観戦率は38.8%、あまり活発ではない「レベル1」も39.6%と、ほぼ同率ながら最も高い直接観戦率を示しており、この傾向は2010年調査と同様であった。



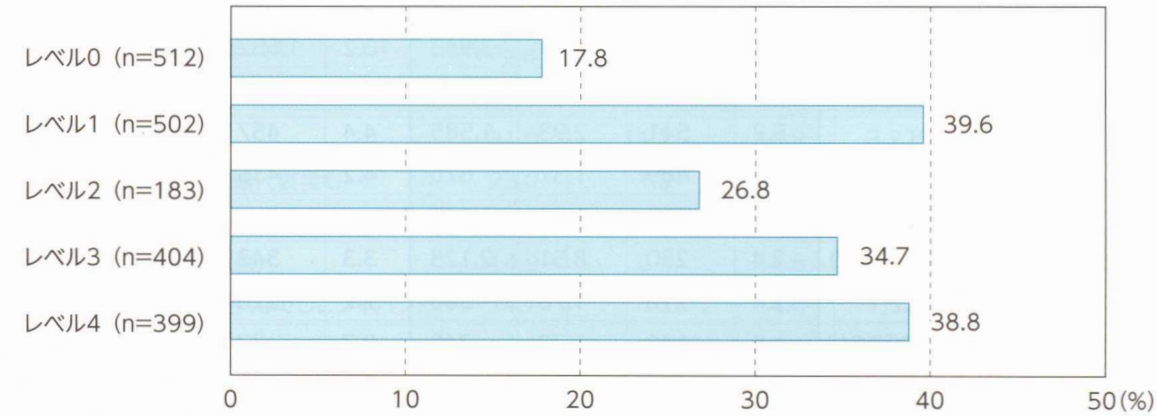
【図4-1】直接スポーツ観戦率の年次推移

資料：笹川スポーツ財団「スポーツライフに関する調査」2012



【図4-2】直接スポーツ観戦率（全体・性別・年代別）

資料：笹川スポーツ財団「スポーツライフに関する調査」2012



【図4-3】直接スポーツ観戦率（レベル別）

資料：笹川スポーツ財団「スポーツライフに関する調査」2012

4-2 | 直接スポーツ観戦種目

直接スポーツ観戦の状況を種目別にみると、わが国の成人全体では「プロ野球（NPB）」の直接スポーツ観戦率が15.8%と最も高く、次いで「高校野球」6.4%、「Jリーグ（J1、J2）」5.2%、「マラソン・駅伝」4.7%となった（**表4-1**）。プロ野球が最も高く、Jリーグ、マラソン・駅伝と続く傾向は過去の調査と同様である。なお、今回の調査から観戦種目の項目を変更したため、過去の調査と単純比較できない種目がある。

観戦頻度では、「その他サッカー（高校、大学、JFLなど）」が年平均8.51回と最も多く、「アマチュア野球（大学、社会人など）」が5.54回、「大相撲」が5.00回と続く。

一方、「フィギュアスケート」が年平均1.18回と最も少なく、「マラソン・駅伝」1.37回、「サッカー日本代表試合（五輪代表含む）」1.70回、「プロゴルフ」1.78回、「バレーボール（日本代表試合）」1.92回などは、直接観戦するのは年平均2回未満の種目となっている。推計観戦人口では、「プロ野球(NPB)」が1,643万人で最も多く、プロスポーツでは「Jリーグ（J1、J2）」541万人がそれに続いた。

性別にみると、男女ともに観戦率の最も高い種目は「プロ野球（NPB）」であるが、男性の観戦率は女性より8ポイント高い（**表4-2**）。また、男性は2位「高校野球」8.6%と、1位、2位ともに野球が占めているが、女性は2位に「マラソン・駅伝」5.0%がランクインしている。

今後の直接スポーツ観戦希望種目をたずねたところ、「プロ野球（NPB）」が31.0%と最も高く、次いで「サッカー日本代表試合（五輪代表含む）」23.0%、「フィギュアスケート」20.2%、「バレーボール（日本代表試合）」14.9%、「サッカー日本女子代表試合（なでしこジャパン）」14.7%となっていた（**表4-3**）。「プロ野球（NPB）」の希望率が最も高い結果は2010年調査と同様であるが、「サッカー日本代表試合（五輪代表含む）」は10.8%から23.0%へ大幅に増加し、今回調査から調査項目に追加した「サッカー日本女子代表試合（なでしこジャパン）」

【表4-1】種目別直接スポーツ観戦状況（複数回答）

順位	観戦種目	2012年(n=2,000) 観戦率(%)	① 推計観戦人口(万人)	② 観戦頻度(回／年)	③ 推計動員数(①×②)(万人)	2010年(n=2,000) 観戦率(%)	④ 推計観戦人口(万人)	⑤ 観戦頻度(回／年)	⑥ 推計動員数(④×⑤)(万人)	推計動員数増減(③−⑥)(万人)
1	プロ野球(NPB)	15.8	1,643	2.40	3,943	16.2	1,682	2.24	3,768	175
2	高校野球	6.4	665	2.82	1,875	−	−	−	−	−
3	Jリーグ(J1、J2)	5.2	541	2.93	1,585	4.4	457	2.26	1,033	552
4	マラソン・駅伝	4.7	489	1.37	670	4.2	436	1.54	671	−1
5	アマチュア野球(大学、社会人など)	2.5	260	5.54	1,440	−	−	−	−	−
6	その他サッカー(高校、大学、JFLなど)	2.4	250	8.51	2,128	3.3	343	8.84	3,032	−901
7	プロゴルフ	2.1	218	1.78	388	2.2	228	1.81	413	−25
8	サッカー日本代表試合(五輪代表含む)	1.4	146	1.70	248	0.7	73	1.08	79	169
9	ラグビー	1.3	135	2.96	400	1.2	125	6.74	843	−443
10	その他バスケットボール(高校、大学、JBLなど)	1.2	125	4.70	588	−	−	−	−	−
	その他バレーボール(高校、大学、Vリーグなど)	1.2	125	3.35	419	−	−	−	−	−
12	格闘技(ボクシング、総合格闘技など)	1.1	114	2.62	299	0.9	93	1.88	175	124
13	大相撲	1.0	104	5.00	520	1.3	135	1.27	171	349
14	バレーボール(日本代表試合)	0.7	73	1.92	140	−	−	−	−	−
15	フィギュアスケート	0.6	62	1.18	73	0.7	73	1.09	80	−7
	プロバスケットボール(bjリーグ)	0.6	62	2.36	146	−	−	−	−	−

注）2012年調査から観戦種目を変更したため、経年比較が不可能な項目は「−」で示した。
資料：笹川スポーツ財団「スポーツライフに関する調査」2012

が5位にランクインするなど、サッカー日本代表試合の観戦希望が高まっている。また、**表4-3**では観戦希望率の上位15種目を取り上げ、観戦希望率を「継続観戦希望(リピーター)率」と「新規観戦希望率」に分けて分析した。すべての種目で継続観戦希望率よりも新規観戦希望率が高い特徴が確認できるが、「プロ野球(NPB)」「高校野球」「Jリーグ(J1、J2)」「マラソン・駅伝」では、観戦希望率に占めるリピーター率の割合が高い傾向がみられた。推計人口をみると、推計継続観戦希望(リピーター)人口は2,776万人、推計新規観戦希望人口は1億8,778万人であり、今後新たにスポーツを直接観戦したいと希望している者はのべ人数ではあるが、わが国人口の1.5倍程度の潜在人口があった。

【表4-2】種目別直接スポーツ観戦率(性別)

男性(n=990)			女性(n=1,010)		
順位	観戦種目	観戦率(%)	順位	観戦種目	観戦率(%)
1	プロ野球(NPB)	19.8	1	プロ野球(NPB)	11.8
2	高校野球	8.6	2	マラソン・駅伝	5.0
3	Jリーグ(J1、J2)	7.0	3	高校野球	4.2
4	マラソン・駅伝	4.3	4	Jリーグ(J1、J2)	3.4
5	プロゴルフ	3.4	5	アマチュア野球(大学、社会人など)	2.4
6	アマチュア野球(大学、社会人など)	2.6	6	その他サッカー(高校、大学、JFLなど)	2.3
7	その他サッカー(高校、大学、JFLなど)	2.4	7	その他バレーボール(高校、大学、Vリーグなど)	1.7
8	サッカー日本代表試合(五輪代表含む)	1.7	8	その他バスケットボール(高校、大学、JBLなど)	1.5
9	格闘技(ボクシング、総合格闘技など)	1.6	9	サッカー日本代表試合(五輪代表含む)	1.0
	ラグビー	1.6	10	バレーボール(日本代表試合)	0.9
				フィギュアスケート	0.9
				ラグビー	0.9

資料:笹川スポーツ財団「スポーツライフに関する調査」2012

【表4-3】種目別直接スポーツ観戦希望状況(複数回答:n=2,000)

順位	観戦種目	観戦希望率(%)	継続観戦希望(リピーター)率(%)	新規観戦希望率(%)	推計観戦希望人口(万人)	推計継続観戦希望(リピーター)人口(万人)	推計新規観戦希望人口(万人)
1	プロ野球(NPB)	31.0	11.2	19.9	3,223	1,165	2,069
2	サッカー日本代表試合(五輪代表含む)	23.0	1.0	22.0	2,391	104	2,287
3	フィギュアスケート	20.2	0.3	20.0	2,100	31	2,079
4	バレーボール(日本代表試合)	14.9	0.3	14.6	1,549	31	1,518
5	サッカー日本女子代表試合(なでしこジャパン)	14.7	0.3	14.4	1,528	31	1,497
6	高校野球	14.2	4.1	10.1	1,476	426	1,050
7	Jリーグ(J1、J2)	13.4	3.6	9.8	1,393	374	1,019
8	大相撲	12.3	0.6	11.7	1,279	62	1,216
9	メジャーリーグ(アメリカ大リーグ)	11.9	0.1	11.8	1,237	10	1,227
10	海外プロサッカー(欧州、南米など)	11.8	0.3	11.5	1,227	31	1,196
11	プロゴルフ	9.6	1.6	8.0	998	166	832
12	格闘技(ボクシング、総合格闘技など)	8.3	0.7	7.6	863	73	790
13	マラソン・駅伝	7.9	2.0	5.9	821	208	613
14	F1やNASCARなど自動車レース	7.3	0.5	6.8	759	52	707
15	プロテニス	6.6	0.1	6.5	686	10	676
						2,776	18,778

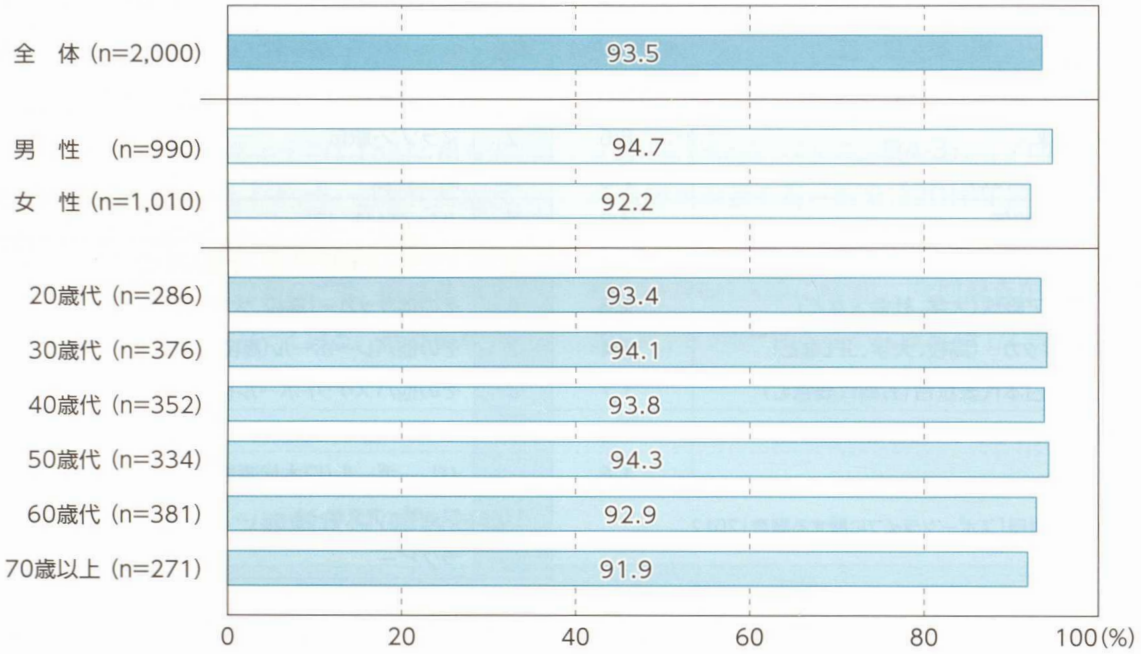
資料:笹川スポーツ財団「スポーツライフに関する調査」2012

4-3 | テレビによるスポーツ観戦状況

過去1年間にテレビで観戦した種目をたずねたところ、テレビによるスポーツ観戦を行った者は、全体の93.5%であり、わが国のテレビによるスポーツ観戦人口は、約9,722万人と推計された（**図4-4**）。

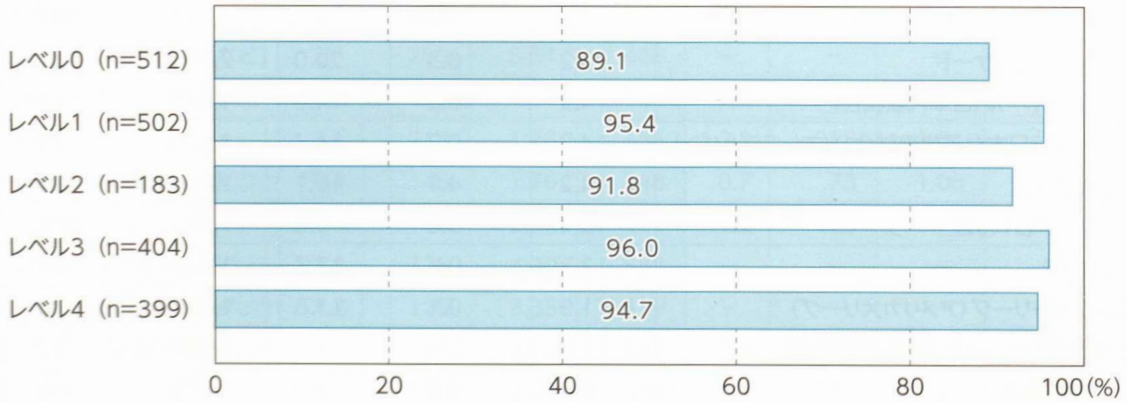
性別にみると、男性のテレビ観戦率が94.7%、女性は92.2%であり、男性が女性を2.5ポイント程度上回っていた。この傾向は2010年調査と同様である。年代別に大きな違いはみられなかった。

運動・スポーツ実施レベル別では、過去1年間に運動・スポーツをまったく行わなかった「レベル0」におけるテレビ観戦率がやや低い値を示した（**図4-5**）。



【図4-4】テレビによるスポーツ観戦率（全体・性別・年代別）

資料：笹川スポーツ財団「スポーツライフに関する調査」2012



【図4-5】テレビによるスポーツ観戦率（レベル別）

資料：笹川スポーツ財団「スポーツライフに関する調査」2012

4-4 | テレビによるスポーツ観戦種目

過去1年間にテレビで観戦した種目では、直接スポーツ観戦同様「プロ野球（NPB）」が61.5%と最も高く、次いで「サッカー日本代表試合（五輪代表含む）」56.7%、「バレーボール（日本代表試合）」52.1%、「フィギュアスケート」50.8%、「サッカー日本女子代表試合（なでしこジャパン）」49.5%となっていた（**表4-4**）。2010年調査と比較すると、「サッカー日本代表試合（五輪代表含む）」が38.3%から56.7%と18.4ポイント増加し、今回の調査から新たに項目に追加した「バレーボール（日本代表試合）」52.1%と「サッカー日本女子代表試合（なでしこジャパン）」49.5%がともに高い数値を示した。

性別にみると、ほとんどの種目で女性より男性の方が高いテレビ観戦率を示した。特に「プロ野球（NPB）」（男性73.3%、女性49.8%）、「メジャーリーグ」（男性40.1%、女性21.0%）、「格闘技（ボクシング、総合格闘技など）」（男性37.9%、女性17.6%）は顕著に男性の値が高かった。一方、「フィギュアスケート」（男性36.6%、女性64.8%）、「バレーボール（日本代表試合）」（男性48.1%、女性55.9%）は女性によるテレビ観戦率が高い値を示した。

【表4-4】テレビによるスポーツ観戦種目別観戦率（全体・性別：複数回答）

全体（n=2,000）			男性（n=990）			女性（n=1,010）		
順位	観戦種目	観戦率（%）	順位	観戦種目	観戦率（%）	順位	観戦種目	観戦率（%）
1	プロ野球（NPB）	61.5	1	プロ野球（NPB）	73.3	1	フィギュアスケート	64.8
2	サッカー日本代表試合（五輪代表含む）	56.7	2	サッカー日本代表試合（五輪代表含む）	59.7	2	バレーボール（日本代表試合）	55.9
3	バレーボール（日本代表試合）	52.1	3	高校野球	53.4	3	サッカー日本代表試合（五輪代表含む）	53.8
4	フィギュアスケート	50.8	4	サッカー日本女子代表試合（なでしこジャパン）	49.7	4	プロ野球（NPB）	49.8
5	サッカー日本女子代表試合（なでしこジャパン）	49.5	5	マラソン・駅伝	48.3	5	サッカー日本女子代表試合（なでしこジャパン）	49.3
6	高校野球	49.1	6	バレーボール（日本代表試合）	48.1	6	マラソン・駅伝	47.5
7	マラソン・駅伝	47.9	7	大相撲	44.0	7	高校野球	44.8
8	大相撲	38.3	8	メジャーリーグ（アメリカ大リーグ）	40.1	8	大相撲	32.7
9	プロゴルフ	31.2	9	格闘技（ボクシング、総合格闘技など）	37.9	9	プロゴルフ	25.3
10	メジャーリーグ（アメリカ大リーグ）	30.5	10	Jリーグ（J1、J2）	37.4	10	Jリーグ（J1、J2）	22.8
11	Jリーグ（J1、J2）	30.0	11	プロゴルフ	37.2	11	プロテニス	21.2
12	格闘技（ボクシング、総合格闘技など）	27.7	12	フィギュアスケート	36.6	12	メジャーリーグ（アメリカ大リーグ）	21.0
13	海外プロサッカー（欧州、南米など）	23.3	13	海外プロサッカー（欧州、南米など）	32.1	13	格闘技（ボクシング、総合格闘技など）	17.6
14	プロテニス	20.6	14	プロテニス	20.0	14	海外プロサッカー（欧州、南米など）	14.6
15	F1やNASCARなど自動車レース	11.8	15	F1やNASCARなど自動車レース	18.6	15	その他バレーボール（高校、大学、Vリーグなど）	6.2
	テレビで観戦した種目はない	6.6		テレビで観戦した種目はない	5.3		テレビで観戦した種目はない	7.8

資料：笹川スポーツ財団「スポーツライフに関する調査」2012

COMMENTS

資料：笹川スポーツ財団「スポーツライフに関する調査」2012

- 年々、地上波での試合中継（国際試合ではなくJリーグやプロ野球）が減少しているのが人気低下の一因になっていると思う。（21歳　男性　学生）
- スポーツはするのもみるのも好き。時間がとれずなかなかできないが、テレビでは遅い時間でも夜中でもみている。どのスポーツも選手が一生懸命なので、みていて元気がでるし、感動する。（50歳　男性　技能的・労務的職業）